

林大だより



第 78 号 令和元年 10 月 18 日

長野県林業大学校翌校友会



2 学 年 オーストリア研修



1 学年 林業概論（木祖村水木沢天然林）



1 学年 御嶽山登山道整備

あれこれと思うこと

長野県林業大学校 校長 河合 広



あつという間に一年半が過ぎ、四月には新しく二十人の学生を迎え、入学して間もない一年生と屋久島へ行ってきました。登山の日だけ大雨に恵まれ、学生達に励まされながら、無事下山しました。遅れる私を、ちよつと先から振り返りながら見守ってくれる学生や、ガンバレーと声を掛けてくれる学生、とても優しい良い子達だなあと思いました。また、林業概論の講義においても、寝る学生が昨年より少なく、私の講義も質が高くなったのでは、と勘違いするほど、起きています。

二年生とは、オーストリア研修で濃密な時間を過ごすことができました。今年は、日奥協会の方々と記念式典をしたり、オーストリア研修が始

まってから十周年を迎えたこと等節目の年でもあり、研修内容も充実を図りました。夏休みが終わり、進学や就職活動も活発になってきましたが、昨年同様、ホツとする反面、少しの寂しさを感じてしまします。これから、大きな行事が目白押しでバタバタすると思いますが、学生達との時間を有意義に過ごしていきたいと思っています。

話がコロコロ変わって恐縮ですが、現在、林大のグレードアップを図るための検討が行われています。地域林業のリーダーを育てることはとても大事な我々の使命であります。が、育て上げた若者を受け入れてくれる事業体のグレードアップも併せて図ることも大事なことです。そして、技術の向上を図るために、常に学べる体制を整えるこ

とも大切なことだと思っています。これからの林大の役割は、とても大きなものになっていくと思いますが、危険な職業とされる林業を、林大で安全教育を学び、社会に飛び出した学生が、その林業界を変え、魅力ある、明るい職業にしてくれることを望みます。この若い力が、少子化で悩む木曽を発展させ、県全体、そして日本全国に至るまで活動の場を広げ、大きく成長してくれるのを願うばかりです。



1 学年 屋久島研修

木曽谷の森林・林業の歴史から学ぶ令和への期待

長野県議会議員 大畑 俊隆



林業大学校生の皆様へ一言
ご挨拶申し上げます。

皆様におかれましては、その学び舎が木曽にある事から、木曽谷の森林・林業の歴史を踏まえ、その歴史から学び教えられるそして林業大学校で学ばれている知識・経験により、令和の時代における皆様のそれぞれの地域に相応しい森林・林業の在り方を創造し、実現して欲しいものと願っています。

なぜ、木曽に林業大学校が創設されたのか。それは、歴史的背景にある事は、周知の事実であるかと思ひます。

安土桃山時代豊臣秀吉は、木曽谷の豊富で優良な木材を利用し始め、江戸時代將軍徳川家康は、木曽を尾張徳川領として木曽谷から多くの木材

を利用してきました。また、六九〇年から行われてきている伊勢神宮の二十年毎の式年遷宮に使用される建て替え材を木曽ヒノキとして使用され、明治三十九年（一九〇六年）神宮備林が木曽谷に設けられ、式年遷宮は今日まで続けられてきています。こうして、木曽谷の森林は、江戸、明治、昭和と国の所謂直轄地として守られてきました。

昭和二十二年（一九四七年）に木曽谷の森林は国有林となり、森林鉄道が目覚ましい運搬能力を発揮し木曽谷の林業の発展に貢献し、約六十年間の中で総延長が四百kmにも及ぶ鉄道網を完成させ、地域住民の足ともなり、木曽谷の様々な産業を大きく成長させていきました。

まさに林業が地域経済の原動力となり、地域住民の生活基盤を支えてきたのです。

また、森林技術も全国から学びに来た旧木曽山林高等学校が、多くの有能な森林・林

業人材を輩出し、日本の森林・林業界を支えてきました。

木曽谷の狭隘で森林面積が九十三%にも及ぶこの辺境の地に、地域の特色を生かした森林・林業の学び舎がすでに木曽山林高校として存在し、歴史の変遷の中で木曽谷が森林・林業の先進地的な教育の場となり、国有林行政に大きな貢献をしていったのは歴史的事実であります。

よって、この木曽谷に林業大学校が開設されてきた歴史的背景がある事が理解される事と存じます。このように地域特有の特色を持った教育は、様々な産業を支え、その地域を潤し、地域住民の生活を向上させていきます。

林業大学校においてもその教育を受けている皆さんは、卓越した知識と技術をどうかそれぞれの地域発展のために十分活かしていただく事を切望いたします。

林業は、森林からの恵みによりその資源を最大限に活かしながら世代を超えて受け継



2学年 全国都市緑化信州フェア

いでいく産業であります。

今後は、持続的循環的資源としての地域森林資源を十分生かしていくために、新たな森林管理システムを構築し、スマート化された森林・林業を目指し、皆様が学んできている森林・林業の知識、技術が必ず生かされる地域産業の要として再構築していかねればならない時かと考えます。

その意味からどうか皆さんの新たな若い発想の中で、森林林業の新たな未来を創造し、その漲るエネルギーをぜひ地域の産業発展のために注いでいって欲しいと願っています。

林大生に期待すること

木曽町長 原 久仁男



私はこの年になっても地域チームの一員としてナイターソフトをやっています。ほとんどベンチ要員ですが。林大生も毎年欠かさずチームを作って参加をいただき、いつもまい選手がいて気が抜けません。しかし、とても楽しく試合ができています。若い人から元気がもらえるような気がしています。林大生は、町のイベントにも積極的に参加をいただいております。欠かせない存在となっております。特に神輿の担ぎ手として貴重な存在となっております。お祭りは日にちで決まっていますので、平日にあたるとかなり大きなダメージとも聞いています。開校四十周年を経て今や町にとっては地域の一員として大切な仲間であると誰もが思っています。私も立場上、

地元として毎年入・卒業式のご案内をいただきますので出席させていただいています。なかでも卒業式においては、とても楽しく思い出を語る卒業生に熱く感謝を述べる在校生と、とても感動的な卒業式でいつも感動しています。これは何よりもたった二年間ではありますが、寮生活をはじめとして様々な取り組みの成果として集約されているものだと思っています。現代において人のきずなを深める機会が少なくなっています。林大が進める全人教育とは、まさに今の世にかけているものを補っているかとも思います。人間は一生学んでいくもの。この二年間の学びが必ずや将来の礎になるものと確信しています。いろいろな仕事がこの世には

ありますが、それは一つとして不要なものはありません。その技術を極めていくのも大きな喜びにはなると思いますが、それには長い時間と努力の積み重ねがいります。まずはその人の人間性ではないでしょうか。私はこの二年間に学びえたものが将来必ずや大きな力となって大きな花を咲かせる時が来ると信じます。青春の真ただ中の二年間、林大で学んだこと、仲間を生涯の友として新たな開拓者として切り開いていくってくだ



寮生活

学生の
ページあす
なる
の
呟

つぶやき

学 校 ・ 寮 生 活 か ら

林業大学校に入って

1 学年
浅川 真人

私は高校のころから林業について学び、もっと知識や技術を身に付け、就職に役立てるために長野県林業大学校に進学してから半年が経ちました。林大生活は二年制になるため林大生活の四分の一が終ったことになりました。大学は高校のころに学んだことの応用や、また新たな分野の授業が多く、授業についていくのがとても大変です。また専門家の授業だけじゃなく一般教科の授業もあるので毎日とても大変です。しかし、自分の好きなことについて知っていくことは楽しいものです。また全寮制という特殊な学校

でもあるため、学校が終わってからや、土日に友達とたくさん遊んだり、一緒に勉強することができるのは林大ならではの魅力でもあります。私はこの半年で多くの授業を受けてきました。しかし、そのすべてを身に付けてはいないので復習をしたり、予習をしたりして林大生活の二年間で知識、技術をより多く身に付けたいです。メインは勉強ではありますがですがせっかくなので大学生活なので友達と旅行などに行き、残りの学生生活を満喫したいです。



1 学年 入学式

1 学年
桶川 峻景林大が
自分に与えた影響

時の流れは速いもので、私が林大に入学してからすでに半年の月日が経とうとしてい

ます。この半年で林大の様々な部分に私は影響され自分の中で大きく成長したと思います。その一つは「自分の身体」についてです。林大では毎朝全員でラジオ体操を行い自分の身体をシャキッとさせます。また実習が多いため授業の中で自然と身体を動かします。このような生活のおかげで規則正しい生活習慣を継続することができ、心身ともに健康になります。もう一つは「自分の意識」についてです。この意識には二つの意味があります。「環境への意識」と「努力への意識」です。林大では木のことだけでなく環境問題やその他の植物に対することも多く学びます。そのため環境への意識が高くなり身の回りの植物や廃棄物にも関心を持つようになります。また林大は全寮制で常に他の生徒と関わります。このような生活の中で多くの

人の努力している姿が見えます。ランニングを頑張っている人、勉強に励んでいる人、チェンソーの練習に打ち込んでいる人、などなど頑張っている人を日常的に見ます。そのため自分も負けていられないとより頑張ろうと思います。そのため努力への意識が高くなります。このように林大での生活で私は大きく成長したと思います。



1 学年 4 月 城山登山



1 学年 4 月 特用林産学



1 学年 6 月 測量学

林業大学校に 入学して

1 学年
小池 涼平

私がこの林業大学校に入学してもう五か月が過ぎました。林業大学校に入学してからのこの五か月間はとても充実したものになったと思っています。全寮制で毎日友人たちといるとちよつとしたトラブルなどもありますが、それ以上に楽しいことがたくさん

あります。例えば、前期の後半には五人ほどで赤沢に泳ぎに行ったりもしました。ほかにも友人と遊んだり気軽に勉強を教えてもらったり全寮制だから可能なことがいろいろあります。

実習では、林業機械学の授業で初めてチェーンソーを触りました。チェーンソーは重くて扱いが難しく、エンジンをかけるのも一苦労でした。刈り払い機も使いました。刈り払い機のほうが手軽に扱えるためにチェーンソーよりも危険だと感じました。

私が将来就きたいと思って

いる公務員の試験勉強も始ま

1 学年
相馬巧太郎

林大での生活

りました。私は一般教養が苦手なので、この類の勉強には苦勞していますが自分の夢のために頑張りたいです。

林大に入学して半年がた

うとしています。最初は不安

であった学校生活、初めての

寮生活も徐々に慣れ、今は楽

しい生活を送っています。

授業は、林業の専

門知識と一般教養が

あり、ほかの学校で

は学ぶことのできな

いような学習もでき

るので面白いです。

実習でもチェーン

ソーなどの林業機械

を扱うことができ、

技術の向上や安全な

作業方法などを習得

することができ充実

しています。

寮生活では、学年混合で四

人一部屋ということもあり大

変な生活になると想像してい

ましたが、仲間と話をしたり

ゲームをするのは楽しいです

し勉強もわからないところは

相談しあつて共に知識や技術

を高め合つていくことができ

るので、そこは他校にない全

寮制の林大の魅力だと感じて

います。ただ、他人の使った

食器を掃除の時間に片付けさ

せられたり多くの理不尽もあ

るのでストレスは感じます。

それも全人教育の一つだと思

うのでいい経験ができと思

いながら卒業まで自分のスキ

ルを高めていきたいです。

林大での成長

1 学年
三浦 勇輝

林大に入学して半年が経

うとしています。今でも入学

式当時の期待と不安は昨日の

ように思い出されます。それ

だけ林大での生活は充実して

あつという間に過ぎてしまっ

たということだと思っています。

私は秋田県の普通高校から来ました。専門的な知識や技術は全く持っておらず、つい



1 学年 7 月 体験研修（ほうば巻づくり）

ていくことができるか不安でしたが座学の他、多くの実習や校外研修を通してより理解を深めることができ、楽しく学習をしています。また、寮生活の不安もありましたが同部屋の先輩、同級生は良い人ばかりで安心して生活しています。しかし、身の回りのことは自分でやらなければならず大変さを実感しています。

ここでは毎日新しい経験、知識を得ることができ、実際に私自身今までに経験してこなかったことや先輩や同級生から教えてもらうことで自分のものの知らなさを感じると同時に新しいことを覚えたと楽しいと感じる時もあります。このようにこの学校は毎日が新鮮で人間的に大きく成長できる場所です。一年生も残り半分を切りました。初心に帰り、気を引き締めて生活していきたいと思います。



2 学年 5 月 車両系建設機械技能実習

学びの時間



2 学年 岩田 紬

二年生になり、林大で過ごす時間も残り少なくなりました。実際に林大での生活を通じて、私は様々なことを学んできました。入学してからの生活では、同級生と寝食を共にすることで社会で役立つような協調性を養うことができ

ました。また、様々な行事を通しての地域の人々との交流も、私にとっては新鮮で非常に刺激的でした。

林業分野を中心とした勉強にもやりがいを感じています。造林や測量、機械操作などに関して私は当初全くの無知でしたが、様々な実習を通して知識を得ることができました。校外へ赴く多様な研修やインターンシップなども、その足掛かりになったのだと思います。

林大では、多くの新しい経験をしてきました。もちろん生活の中には様々な隘路もあります。しかしそれ以上に充実した時間の中で、林業の学びだけでなく人間性も深められるところは林大の大きな魅力と感じています。そして得た経験は、必ず自身の将来を助長するものになると思っています。この恵まれた環境下で勉強できることに感謝し、林大で過ごす残りの時間を大切にしていきたいです。



2 学年 5 月 森林保護獣害対策学 (わな設置)

林業大学校での変化



2 学年 小林 大起

二年生の私にとって学生最後の夏を迎えました。思えば入学してから一年と半年が経ち、楽しい林大生活も残りあと半年しかないと思うと本当にあつという間で少し残念に感じています。こんな私ですが林大入学当初までは人見知

林大の SNS



2 学年 高橋 幸司

長野県林業大学校が SNS (Instagram, Facebook) 上にアカウントを作り、投稿していることをご存知でしょうか。学生自身が運営しており、授業や学校生活などの内容を日々投稿しています。

りが強く、同期のみならず先輩と同じ部屋で共同生活を送ることに不安と緊張ばかり感じていました。しかし同期とは直ぐに打ち解けることができ、昨年のこの頃には先輩とも親しい関係になっていました。これは入学前の私では考えられないことで改めて振り返るとその変化に自分自身驚いています。

オーストリア研修を終え、大きなイベントも寮祭、伐木大会と少なくなってきました。残りの林大生活を大切にそして楽しんで過ごしていきたいです。



2学年 6月 木材商業論

私は運営にたずさわっていて、それ以来、実習でお世話になっていらっしゃる先生方や地域の方々から「林大のインスタグラム、すごいね」や「いつも見ているよ」という感想をいただくようになりました。私は多くの方々に林大のSNSをご覧いただいていることをうれしく思い、さらに喜んでいただけるよう努力しています。

もし、まだ林大の公式アカ

ウントをフォローしていない方がいらっしゃったら、是非フォローをお願いします。今後は第四十一回木望祭や三林大伐木選手権の様子を投稿していくので、林大の公式アカウントをどうぞよろしくお願いします。

最後になりましたが、いつもご指導していただいている下澤先生をはじめとする教職員の方々に感謝申し上げます。

林業大学校が自分に 与えてくれたもの



2学年 堀川 開智

自分は長野県林業大学校に通う中で様々なものを林大からもらいました。毎日の朝礼とラジオ体操は規則正しい生活、寮での共同生活は他人を思いやる心、勉強面でも屋久島やオーストリアをはじめとした様々な研修を通して多くの経験を得ました。林大で過ごした時間は自分にとってのりの多い時間でしたが、自分が林大で手に入れたもので最も大事なものは仲間だと思います。同じ林業を志す仲間たちと文字通り同じ釜の飯を食う生活は一生忘れられるものではありませんし、きつと卒業しても自分たちの友情はずっとなくなることはないでしょう。

皆さんもぜひ長野県林業大学校でかけがえのない宝物を手に入れましょう。

夢を見つける場所



2学年 山下 将司

自分は普通科の高校出身で将来の目標もなんとなく自然にかかわる仕事がしたいという漠然としたものでした。周囲には林業大学校でチェーンソーを学び現場で活躍したい、樹木のことに詳しくなっ



2学年 7月 みこしまくり

将来は環境保全について学びたい、そう思った自分は大学への編入を目指しました。先生や周囲の助けもあり信州大学への切符をつかんだ自分は来年からそこで環境保全について学びます。

自分は長野県林業大学校で夢を見つけることができました。

引かなかったままオーストリアに行った自分はそこで改めて日本の生物多様性の豊かさを実感し環境保全に関して強い興味を持つようになりました。

自分が環境保全について学

て樹木医になりたいといった目標を具体的に持った人たちがいて自分は焦っていました。

林大で授業を受けて印象に残ったのは自然環境が急速に失われているということでした。そのことが心に

保護者の
ページ絵
の
一
言

長野林業大

という縁

大澤 和宏



高校二年生の時、息子から「林業やってみたい」と打ち明けられた時に「なんで林業？」と海に囲まれて育った私には正直疑問でしたが、息子が本人の口から初めて将来について意思表示した瞬間でもありました。

片親で息子にとっては、不自由な思いをさせ、小・中学校と紆余曲折があり、順風満帆な学生生活ではなかった息子が真剣に将来を考え、進学という道を選択したことに喜びを感じた反面、本当に林業を生業としてやっていけるか不安もあります。

日本の一次産業構造は、欧米諸国と比較すると小規模・

零細経営であり、更には高齢化の波に晒され厳しい環境であることを重々承知し、男として選んだ道であるならば、親として精一杯応援することが社会人として旅立つ息子への最後の仕事だと思っています。

二年間と短い学生生活ですが、長野林業大という縁で結ばれた先生方や先輩・仲間たちと、

精一杯学び、思いつき遊び、沢山のことを吸収し、一回りも二回りも人間として大きくなった息子を想像し、見届けることが私の今の楽しみでもあります。

親元を離れ、慣れない共同生活で、先生方に御迷惑おかけしますが温かい目で、時には厳しく叱咤激励の程、宜しくお願ひします。



オープンキャンパス

「人」を育てる

久保島剛志



不安ばかりで始まった林大での生活、娘も私達親も全て心配から始まりました。

私も妻も旧木曽山林高校を出ており測量や山林での実習、畑での作業などは経験してきましたが当時通っていた高校の近くの大学校と言うだけで、林大はどんな大学校なのか、まったく知りませんでした。

高校の実習の授業の時、演習林で林大生に会うこともあり作業着姿で測量をしていたので高校の延長なんだろうと軽視していたかもしれない。娘にとっても未知の学校であったと思います。地元で育ちながら恥ずかしい限りです。

それが、まずは、入寮の日我々を迎えて下さった生徒さ

んのあいさつと荷物を運んで案内してくれた姿に、一年前は娘と同じ立場だった子達だよねと妻と感心させられそれと同時に安心感がこみ上げてきました。

四年制大学にくらべれば、一日一日を忙しく過ごしていかなければならないと思いますが、林大は、子ども達が社会へ出て活躍するための専門技術や知識だけではなく生徒一人一人の「人」を育てて下さる学校なのだと思います。娘は林業の現場へ出ることを目標としています。二年という短期の学校生活の中でどう進路をとっていくか期待しております。

長野と徳島

佐野 幸一



徳島から遠く離れた長野に、子どもを通じて御縁を持つ事が出来ました。長野県と

の御縁は、我が家の菩提寺が全国善光寺会である。母方の御先祖といわれる、佐々木高綱の墓所がある。諏訪大社の元宮が、徳島にあった？など、他にも探せば色々な御縁が出てきそうです。

そんな、御縁をもちたしてくれた子どもの林大での活動は、SNSを通じて発信して下さる内容に「いいね！」をしながら、楽しく拝見させて頂いております。

初めての帰省時は、同部屋



トップガン研修

寮生活になり毎日顔を見れなくなりましたがたまに帰って来て顔を見るといい顔になってきたぞと嬉しくなります。そんな私の最近の日課とちよっとしたお楽しみが、木曾のお天気と新聞の木曾版を観る事。子どもを林業大学校に送って行った帰りに食べる美味しい木曾のクリームあ

の先輩が、わざわざ郷里を飛び越えて徳島まで送ってくださいました。先輩からも、寮生活にアルバイトの様子などを聞かせて頂きました。充実した、林大生として生活を送っている事を嬉しく思います。

林大で過ごす貴重な二年間は、体調管理に気をつけて、学びを深め、徳島では感じられない木曾山脈のように雄大な姿に成長される事を楽しみにしております。長野県との御縁に感謝です。

四月の入学式の帰りに「トップガン講習」。なんか凄そうな授業は何？と気になりながら木曾の名物そば饅頭を買って帰ったのが



我が子、
林大にいく
榎本 光恵

んばんです。

山の香りのする林業大学校で皆様と学ばせて貰う事になった素敵なご縁に感謝しております。これからもよろしくお願いいたします。

木に囲まれた
暮らし
百木久美代



うちの苗字は『百木』と書いて『ももき』といいます。私は旧姓が鈴木と言うのですが、百という文字には沢山という意味があるので、鈴木や林、森より沢山の木を与えられた気がして結婚当初は嬉しかったものです。ただ、長野県に移ってきて『栢木』さんに出会ったときには「負けたな。」と思いました（笑）。まだまだ知らない木は沢山あるのじゃないかな。現在は夫が手がけた木の家で、どこからでも忍び込んでくる小さな生き物たちと仲良

く暮らしています。「長野県の林業がヤバいらしい」こんな言葉が息子の口から出てきたのは、彼が高校三年生になってしばらくの頃でした。これには親としてもとても驚いたのですが、二十一世紀に生まれた子どもたちが、自然と関わって生きていきたいと思ってくれたことはとても幸いなことです。そうして志を同じくして集った二十名の若者たちが、これからそれぞれに目指す木を育んでいくって、くれることを陰ながら応援しています。

凡事徹底

赤塚 幸則



当たり前のことを徹底的にやるだけでほとんどのことは達成できるものだ。平凡なことを徹底してやると、平凡な中から生まれてくる非凡が、いつかは人を感動させること

ができ、成果に結びつく。

長野県林業大学校は、三年制の専門職短期大学に移行させる計画が進んでいる、とのこと。異業種連携や国際基準のキャリア開発、地域の森林整備を担う人材を育てる大学校に、というコンセプトを立てたようだ。

蟻の穴から堤も崩れる、という。当たり前のことに拘れることの尊さを分かる人物育成こそが大切なのである。是非、凡事徹底して仕事に取り組める人材を育てていただきたい。そして、変化に対応し生き残るために、温故知新の心で歴史に胡坐をかくことなく新たな挑戦を続けてほしい。

林業大学校と日本林業の今後に期待する。



頑張れ息子!

風間 優公



息子が育った大阪はたいした自然も無く長野県とは環境が大きく違います。雪も降りません。家から遠く離れた土地をよく選んだなと思います。寮生活で自立することなんてできるのか?と思いますが選んだ道を信じてやろうと思います。

学校生活では、いろいろなカリキュラムに頑張っている話を聞きました。屋久島研修もオーストリア研修もとても満足していたようです。ただ、夜中に車のタイヤを溝にハマってしまったという経験は心配しました。

我が国は山地も多く、木材を使う文化を育んできました。しかし、その文化を担う働き手が不足しています。荒れる植林地、保水力を失った

土地、洪水……。酸素も材木も森林に依存しています。そんな森林を育てるための次世代の働き手を育てて下さってありがとうございます。息子に関わってくださった多くの先生方、寮の方、同じ学生の方、本当にありがとうございます。

かけがえのない経験

服部 光代



息子が林大生となり早いもので一年半が経ちました。入学する前は、なぜ林業なのかと正直思っていた私ですが、林大での生活が始まった当初新鮮なことがかりのようでした。特に寮生活は、息子にとって初めてのことで、家で全くしていなかった洗濯や料理はもちろん、友達との共同生活はとても良い経験となっていると思います。

また、二年生になってからのオーストリア研修は、学習面ではもちろんですが、息子にとっては初めての海外がヨーロッパということで日本とは違う文化や見たことのない景色や建物を体感できたのは、かけがえのない経験となったと思います。

林大での生活はあと半年程となりますが、先生方に感謝しながら、また友達との時間も大切に、悔いのないよう過ごしてほしいと思います。

新たなステージへ

三室 正樹



息子が林業に興味を持ち始めたのは中学生の頃だったと思います。ボランティア活動をした、山に入り植樹をして地球環境を守りたい。そんな思いから地元の農業高校に進学し、林業に対する想いも強くなり、それならば私の友

人に林業従

事者がいた

ので相談と

アドバイス

をもらい、

いくつかあ

る進路先か

ら木曽林業

大学校へ進

学する決心

がついたと

思います。

林大に入学

が決まって

からの林大

での生活は

あつという

間に過ぎて

いる事で

しょう。こ

れから先ど

のような形

で林業に携

わっていく

のかは

本人次第で

すが、若い

時は何に

でもチャレ

ンジして

欲しい

です。社会

に出て理

想と現実

の狭間で

悩んだ時

には初心

を思い出して欲しいものです。最後に、林業大学校の先生方関係者の皆様いつもお世話になっております。林大での生活も残りわずかですが、よろしくお願い致します。



木曽町保育園との交流



かけがえのない
二年間



株林友 木材センター
山林事業部
千代 宗平
(第37期生)

私が林業大学校を卒業して、来春で早三年が経とうとしています。つい先日、講堂で卒業式をしたような記憶があります、あれからもう三年が経つと思うと、月日が流

嶮ノ記



企画幹兼教授
棚秋 隆哉

もうみんなは「学生時代」という山から下山を始め、麓にたどり着く頃だろう。そして次に「社会人」として新しい山に登り始める。

今まさにみんなは、自分と
いうザックに知識や技術を詰

檜のアドバース

れる速さを改めて実感しました。

今の林大生にアドバイスと言っても、自分自身がまだ未熟であり、そんなに大したアドバイスはできませんので、林大の二年間でこれだけはやっておくべき!と感じたことを二つだけご紹介します。

一つ目は、とにかく学校生活を全力で楽しむことです。

い時間しかありません。入寮日に優しい先輩方に迎えら

れ、屋久島研修でそれぞれが探り合いながらも仲良くなり、ようやく楽しい充実した林大生活が始まったと思ったら、そこから卒業までは本当に一瞬の出来事です。その一瞬の中で、勉強や実習はもちろん、日々の寮生活を通じ

て、たくさんの思い出を作って下さい。林大生活で出会った方々との繋がりは、卒業し

てからも決してなくなることは
ありません。仲間や先輩・

後輩、先生方や寮母さん、地域の方々との繋がりは、社会に出てからも必ず、かけがえのない財産になります。悔いの残らないよう、残された林大生活を全力で楽しんで下さい。

二つ目は、どんな課題でも提出期限を守ることです。これは当たり前と思う人もいるかもしれませんが、社会に出

て当たり前のこと
とができない
と、会社にとつ

て必要な人材にはなれませんが、期限ギリギリで提出していませんか？課題が出てから三日以内には提出するくらいの意識を持ってやってみて下さい。学生時代から習慣にしておけば、就職してから苦労することはありません。

最後になりますが、誰もが卒業してから「あの頃に戻りたい」と思うはずです。残りの林大生活を悔いの残らないよう、かけがえのない時間を過ごして下さい。

労することはありません。

め込み、どんな険しい山でも登攀できる気力と体力を身につけるために、学業に没頭しているのだ。

ここでの二年間は、学生と

してお互いが共感しあって苦しみ楽しむことのできる最期の時間だ。その場所として、木曾駒に連なる見事な青垣に囲まれたこの嶮はまことに相応しい。雑念を排して「社会人」という山への登山計画書を綿密に作り上げる

ザックは簡単にはいっぱいにならない。安心し

ていい。どんどん詰め込もう。そのとき、できれば「万物への感謝と謙虚な気持ち」も一緒に入れておいてほしい。

いざ「社会人」という山に

取りかかると、時には天候不順で足踏みすることもあれば、体調不良で別の登山道を探さなければならなくなるかもしれない。それでも目指す山頂に向けてその一歩を止めないでほしい。その一歩こそがみ

は、とても美しい。

それでも頂にたてないこともある。どんなに努力してももう一步も登れない。そんなときは、そこで一度大きく深呼吸し、辺りを見渡して、ここらだと思ったら、そこを自分の頂上にすればいい。誰も文句を言いはしない、それは頑張った自分の人生なのだから。今はまだそのことは少し置いておいて、きたる山行のための準備に勤しもう。

我 ら 林 大 生 !

2 学年 みこしまくり



1 学年 雨の中の屋久島研修



チエーンソー防護服を着た
林大生の勇姿

朝のラジオ体操



インターンシップ
報告会



編集後記

私のようにアラフィフになると、運動どころか、身体を動かすことさえ面倒くさくなってくるので、よほどの強い意志を持ってやろうと思わない限り、身体を動かすことからほとんどと遠ざかっていってしまいます。そういう状況の中、毎朝学生と一緒にやっているラジオ体操は、貴重な運動の機会となっています。学生の後ろで皆の背中を見ながらやっています。ラジオ体操なんか運動のうちに入らないと日頃から運動している人は言うかもしれない。ごもっともですが、たかがラジオ体操であっても最初から最後まで手を抜かずにやると、それなりに身体に負荷がかかってくる。毎日のようにラジオ体操をしている今は、全くしてこなかった頃に比べてきつと健康体になっていると勝手に思っているが、目に見えて成果が出るわけでもなく、健康になっている実感もない。このような状況が続くと、本当に効果があるのだろうかとか疑念を抱くようになるし、当然やる気もなくなってくる。そんな気持ちでラジオ体操をやっているとき、学生の背中に書いてある言葉が目飛び込んできました。「小さな一歩の積み重ねが大きな結果を生む」と。お蔭で気合を入れ直すことができました。



■事務局 長野県林業大学校内
〒397-0002
長野県木曽郡木曽町新開4385-1
TEL 0264-23-2321
FAX 0264-21-1058